

インテック エグゼクティブセミナー 2014開催

インテックは8月29日から31日の3日間、「インテックエグゼクティブセミナー」を開催しました。本セミナーはお客さまに日頃の感謝の意をお伝えするとともに、インテックをより深く知っていただく機会として毎年この時期に、創業の地・富山で開催しています。今年は全国から25名のお客さまが参加されました。

初日は、「広貫堂資料館」をご案内し、越中売薬の歴史と魅力に触れていただきました。その後、最新鋭のデータセンター「パワー・アンド・IT」を見学していただき、免震構造と万全のセキュリティ設備や地震が比較的少ない富山の地形についてご説明しました。

2日目のセミナーではまず、インテック最高顧問の中尾哲雄が富山の歴史とインテック50年の歩みについて紹介しました。続いて、プロが選ぶ日本のホテル・旅館100選で34年連続総合日本一の加賀屋の小田禎彦相談役（石川県）、農産物に生産者の名前をつけて商品売るという手法をいち早く導入した多田自然農場の多田克彦社長（岩手県）による基調講演を行いました。講演終了後には、全国的にも有名な「越中八尾おわら風の盆」の前夜祭を訪れ、情緒ある町並みと哀調を帯びた歌と踊り、胡弓の音色を楽しみました。



北陸新幹線開業に向けた “おもてなし”観光戦略

株式会社加賀屋
代表取締役相談役

小田 禎彦 氏



観光とは、「時間を費やして物語をつくること」と言った人がいたがそのとおり。その物語を販売するのが観光産業である。この分衆時代、十人十色ではなく、十人百色の要望があり、その要望にお応えして喜んでいただく。そして、その喜びを自分の喜びとすることが“おもてなし”である。来年3月の北陸新幹線の開業により首都圏から金沢まで2時間半に時間が短縮され、北陸に来やすくなるので、何度も足を運んでもらえるような“おもてなし”をしていかなければならない。そのために1次産業から3次産業まで、衣食住が関わって、地域全体で盛り上げることが大事。

私の6次産業化への道

有限会社多田自然農場
代表取締役社長

多田 克彦 氏



現在、50種類の商品を作っているが、作りたくて作ったわけではない。全て問題にぶつかって、なんとか救わなければならないと思い、農協を脱退して、農産物の生産から加工、流通販売まで自分で行う6次産業の道へ進んだ。商売にはそれぞれ3つの不末がある。「不健康・不安定・不安」「未発達・未熟・未来」である。不末の壁にぶつかり、これを越えなければならないときにイノベーションが起こる。また、新しい発想を得るには異業種交流は大切。人と人が会うことによって化学反応がおき、新しい商品が生まれる。今、日本の農業を活性化するには、2次産業や3次産業のノウハウを注入するときであり、これをどれだけ取り入れるかによって成長戦略が決まるであろう。

技術開発50年の歩みを展示

インテックは9月1日、創立50年記念事業の一環として、歴史展示コーナーをインテック大山研修センター（富山市）2階に開設しました。

技術開発の歴史を視覚で伝える通信機器をはじめ、年表、パネル、出版物などを展示し、いつでもどこでも誰もがコンピュータを活用できる「コンピュータ・ユーティリティ」の実現に取り組んできた50年の歩みを紹介しています。

なお見学を希望される場合は、事前にインテック大山研修センターへお問い合わせください。



お問い合わせ先：インテック大山研修センター 富山市東黒牧140-1 TEL：076-483-8111

IoTのセキュリティで新サービス カーナビやネットバンキングの安全対策にも

インテックはウェブルート社と協業し、スマートフォンやタブレット端末などインターネットに接続している端末(エンドポイントデバイス)のセキュリティ状況をリアルタイムに可視化し、Webサーバへの危険なアクセスを制御するサービスを提供します。日本国内の法人向けに来年2月から開始します。

近年、スマートフォンやタブレット端末などからインターネットを介して各種サービスにアクセスすることが一般化しています。加えて、カーナビや家電などあらゆる識別可能な“モノ”がインターネットに接続するようになってきたことから、これらデバイスがセキュリティ上の脅威にさらされるリスクも懸念されています。

インテックはウェブルート社が開発したエンドポイントセキュリティサービス「SecureAnywhere」を活用し、大量のデバイスを保有するお客さまのセキュリティリスクの軽減やインターネットバンキングの不正送金対策、カーナビやスマートメーター、POSなどのセキュリティ対策を支援していきます。



ウェブルートのディック・ウィリアムズCEOとインテックの滝澤光樹社長(右)

SecureAnywhere

米国トップシェアをもつクラウドベースのエンドポイントセキュリティサービスで、約3,500万台の自社、パートナー企業の利用者のデバイスをリアルタイムに監視しています。刻々と発生する新たな脅威、新種や亜種のマルウェアを素早く把握し自動解析するため、迅速な対策が可能です。

お問い合わせ先：株式会社インテック クラウド事業推進部
TEL: 045-451-2398 e-mail: net_info@intec.co.jp

センサー情報による状態監視 デモシステム出展

北陸電気工業とインテックは10月、幕張メッセで開催された最先端IT・エレクトロニクス総合展(CEATEC JAPAN 2014)に、共同で研究してきた「各種センサーによる状態監視ソリューション」のデモシステムを出展しました。

模型電車で北陸電気工業が製造・販売する各種センサーと特定小電力無線を搭載して実際に走行させるもので、インテック先端技術研究所で開発した小型監視サーバでリアルタイムにセンサー情報を取得し、スマートフォンやウェアラブルメカネを使って車両の監視を行います。

会場では、実際に走行している模型電車の位置や速度・車両の傾斜等を表示しながら、火災(ガス濃度)や停車位置によって発停車を自動制御する様子を紹介しました。



お問い合わせ先：株式会社インテック 先端技術研究所
TEL: 076-444-8012 e-mail: info-ati@intec.co.jp

M2M、IoTの実証実験をサポートします

インテックは来年1月(予定)より、M2MやIoTの活用を検討している企業や団体などに実証実験の環境として「ユビキタスプラットフォーム」を提供します。

インテックが技術開発・実証実験を進めてきた「ユビキタスプラットフォーム」は、センサーやスマート端末、各種機器から発生する膨大な時系列データを収集・管理し、リアルタイムおよびバッチ処理で解析します。天気予報のような環境に関わるオープンデータ、SNS等から得られるソーシャルデータなどの情報を用いることで、より実世界の状況に即したビッグデータ解析を実現します。

社会に新たな価値を生み出すには、様々な企業や自治体などが有機的に連携することが重要だとインテックは考えています。「ユビキタスプラットフォーム」をそのための基盤に育て、より多くの皆さまに利用していただけるよう、まずはM2M、IoTの導入効果を評価できる環境として提供していきます。

実証実験のお問い合わせ

株式会社インテック ユビキタスプラットフォーム事業開発室
TEL: 03-5665-5141 e-mail: ubiq@intec.co.jp

富山市でOECD国際会議 ~高齢社会におけるレジリエントな都市~ インテックが事例発表

富山市と経済協力開発機構(OECD)は10月17日、国際会議「都市の国際ラウンドテーブル」を富山市で開催しました。OECDが取り組む「高齢社会における持続可能な都市政策」の事例研究都市に富山市が選定されていることから、同市での開催となりました。

会議には海外6カ国と国内5都市、日本政府代表らとともに、インテック専務取締役の石井貞行が出席し、世界的課題となりつつある高齢社会への対応策を話し合った。



石井貞行専務取締役

事例発表の中で石井は、持続可能な社会システム構築のためには、都市と企業の共生が重要と訴えるとともに、超高齢社会を見据え、富山市をフィールドにインテックらが実証した「いきいきシニア倍増計



富山市提供

画」について報告しました。議長を務めた森富山市長は、国や都市、国際機関、民間企業が連携を強め、地域社会の努力を取り込みながら、しなやかで強い都市の実現を目指すとする議長総括を取りまとめました。

「ASP・SaaS・クラウドアワード2014」受賞

インテックは、NPO法人ASP・SaaS・クラウドコンソーシアム(以下、ASPIC)が主催する「第8回ASP・SaaS・クラウドアワード2014」において、2つの賞を受賞しました。

国内で提供されている優秀かつ社会に有益なASP・SaaS・クラウドサービスを表彰するもので、データセンター部門およびIaaS・PaaS部門ハード基盤分野の2部門において、「ASPIC会長特別賞」、「先進技術賞」を受賞しました。2012年の第6回から3回連続の受賞となります。



データセンター部門「ASPIC会長特別賞」

●独自監視基盤による2拠点運用システム

広域仮想クラウドサービスを支える独自の運用・監視システム。首都圏と北陸の運用センターに完全二重化した運用システムと体制を構築。一方のセンターが被災しても「止まらない運用」を実現した点などが評価されました。

IaaS・PaaS部門ハード基盤分野「先進技術賞」

●EINS/SPS SelfPortal(アインズ エスピーエス セルフポータル)

企業向けパブリッククラウド(IaaS)のサービス。お客さま自身がインターネット経由でIaaSの操作をするコントロールパネル機能を持ち、ネットワーク、サーバ、ストレージといった環境を自由に構築することができます。このコントロールパネルを中心にサブシステムをAPIで統合した先進のアーキテクチャなどが評価されました。

「人材開発部」を新設 社会システム事業の担い手を育成

インテックは10月1日付で「人材開発部」を新設しました。

ICTプロフェッショナルとして「社会システム企業」への転換を掲げる中、教育・研修、人事制度の企画・設計を行う専門部門の設置によって、社会システム事業の担い手となる人材育成をさらに加速していきます。



人材開発部長
橋本 美穂

インテックの財産は人です。そして人材開発部の存在意義は、人材開発を通してお客さまのお役に立つこと、お客さまのお役に立てる人材の育成やそのための仕組みを構築していくこと

だと考えています。お客さまに高品質のサービスをご提供できるような社員が育つ環境を提供することで「社会システム企業」を目指していきたいと思えます。

母子手帳アプリ、試験運用スタート

インテックは富山市より委託を受け、スマートフォン向けの新しいアプリ「育さぼとやま(仮称)」を共同開発しました。現在配布している冊子の母子手帳と併用するもので、子どもの成長を文字や写真を組み合わせて日記として残すことができます。出産予定日を入力すると妊娠週数と出産までの日数がカウントダウン表示されたり、赤ちゃんの身長や体重などの健診記録を入力すると発育の推移が自動的にグラフ表示されるなど、視覚的に工夫された様々な機能があります。

さらに、子どもの月齢に合わせて配信される予防接種や乳幼児健診の案内や感染症の流行情報などを受信できるほか、子育てに役立つQ&Aや、赤ちゃんの沐浴の仕方の動画などをスマートフォンから簡単に閲覧することができます。

現在、モニターによる試験運用中で、今後、モニターの意見をアプリの機能に反映させ、来年1月からの本格運用を予定しています。



■赤ちゃん教室でのモニター説明会の様子



お問い合わせ先：株式会社インテック 行政システム営業部
TEL：076-444-8030

ネクスウェイ グルメデリバリー情報誌創刊

ネクスウェイは『グルメデリバリー情報誌MYチョイス』を創刊しました。多数ジャンルの情報を1冊にまとめて月に1回程度、自宅に届けることで「保管しやすい」「選びやすい」、そしてチラシを見ながら電話で注文したいというシニア層やファミリー層の消費者にとって「注文しやすい」情報誌を目指します。すでに東京 白金・白金台エリアで提供を開始しており、他エリアへも展開し、同時に多くの掲載企業を募集していく予定です。



お問い合わせ先：ネクスウェイ TEL：0120-341-890
(平日 9:00-12:00/13:00-18:00)
e-mail：clp@nexway.co.jp

がん検診受診促進シンボルマーク 最優秀賞受賞

富山県が公募していた、がん検診受診促進シンボルマークにスカイインテック広告事業部の渡辺靖代さんの作品が196点の中から最優秀賞に選ばれました。



シンボルマークはがんリボン運動のリボンをモチーフに横に伸びるリボンを足してTOYAMAの“T”を表現しています。

今後、富山県のがん検診受診促進キャンペーンのPRに活用されます。



10月1日、富岩運河環水公園(富山県)でピンクリボン・ライトアップ点灯式にあわせ授賞式が行われました。

F³(エフキューブ)金融犯罪対策ソリューション、相次いで採用

千葉銀行、静岡銀行、富山第一銀行は、インテックの金融機関向け金融犯罪対策ソリューション「F³(エフキューブ)・AMLオプション」を採用しました。富山第一銀行は3月より稼働、千葉銀行は5月より一部で稼働を開始しており、静岡銀行は来年春の稼働を予定しています。

AMLオプションは、国内金融機関向けのアンチ・マネーロンダリング(AML)ソリューションとして、複数の地方銀行と共同検討して開発したものです。新規取引の事前チェック強化、金融犯罪事犯に柔軟に対応できる検知条件による取引モニタリング、「疑わしい取引の届出」の効率化を実現します。さらに、金融犯罪対策業務と顧客情報シ

テム(CRMシステム)を連携させ、継続的に顧客情報の蓄積・管理に役立てることができます。

F³(エフキューブ)：Flexible Financial Frontier

インテックが提供する金融機関向け情報系ソリューションの総称。CRM、SFA、EBM、コールセンター、ローン審査、アンチ・マネーロンダリング(AML)などから構成される金融機関向け「情報系ソリューション」です。業務機能の体系化と業務単位のコンポーネント化で合理的なシステム導入と拡張性を実現しています。F³(エフキューブ)シリーズはこれまで90社以上の金融機関に導入されています。

お問い合わせ先：株式会社インテック 金融ソリューションサービス事業本部
TEL：045-451-2424 e-mail：sbp_info@intec.co.jp

より便利で安全な位置情報の利用へ

音波で医師・看護師の所在を確認 スマートフォン利用で低コストに

インテックは大成建設と共同で、医師・看護師の屋内所在管理システム「T-Location.H」を開発しました。大成建設のもつ医療機器の所在検知技術を基に、人の耳には聞こえない音波を用いるインテックの屋内位置特定技術を組み合わせました。

アプリ起動なしで位置検知 プライバシーにも配慮

インテックは9月、スマートフォンのアプリを起動させなくても位置情報を検知する技術を開発しました。近年、会員の来店時にクーポンなどの情報配信を行う店舗が増えてきました。しかし、会員はお店に行くたびに対象店舗のアプリを探して起動させなければなりません。

今回開発した技術では、Wi-Fiのアクセスポイントを探すためにスマートフォンが常時発信している電波を使って位置を検知します。そのため、会員はアプリが起動していなく

音波を出すID発信機を天井に設置し、スマートフォンの内蔵マイクで検知することによって医師・看護師がどのエリアにいるかを特定します。高速での位置検知が可能のため、歩行速度に追従することができます。

効率的な医療のためにスタッフの所在を把握したいという要望に応えるとともに、ICタグなどの専用デバイスではなくスマートフォンを利用することで低コスト化を実現しました。

でも情報を受けることができ、店舗側も会員情報を取得することで効率的な広告宣伝を行うことができます。

また、従来のWi-Fiを利用した位置検知と異なり、スマートフォンを一意的、永続的に識別する「MACアドレス」を使用しません。プライバシーに配慮し、利用者自身が位置検知の許諾をした時に自動的に付与される識別子を利用します。この識別子は一時的なもので、利用者が位置検知中止の操作をするとスマートフォンから削除でき、その利用者に関わる情報が削除されます。9月末よりベータ版を提供しており、2015年に商用提供を予定しています。



お問い合わせ先：
株式会社インテック 先端技術研究所
TEL：045-451-2340
e-mail：info-ati@intec.co.jp